

映画「ガラスのうさぎ」を鑑賞して



さを強く表現することは当然だが、私はここまで悲惨さを訴えなくてもよいのではないかと感じていた。しかし、戦争を実際に体験された方のお話では、現実はずっとひどいものであったとのことだ。

昨年、集団的自衛権を巡って国会を中心に全国で大議論が行われ、最終的に新しい法律が制定された。選挙権も18歳からになった。そして現在国会では、憲法改正について議論されている。この映画を鑑賞して、戦争や憲法について、人任せにするのではなく、一人一人自身の問題として真剣に考えてほしいとさらに願うようになった。もちろん、私も今一度多くの人の意見を聞き、自分自身の考えを深めていこうと思う。

主人公の少女は、太平洋戦争の末期、東京大空襲で母親と二人の妹を亡くし、疎開の途中駅で飛行機からの銃弾で父親を亡くし、たった一人になってしまった。戦争が終わり、預けられていた親戚先では水くみや家畜の世話などをし、学校も行かせてもらえない厳しい生活を送った。その後、戦地から帰ってきた兄と一緒に戦後を一生懸命に生き抜き、最後に新しくできた日本国憲法について語るといった内容であった。

戦争をテーマにした映画は、悲惨

T・K

●アンケートに感想をいただきまして、一部を紹介します。

◎60代 女性

平和のありがたさを感じるとともに、貧しくとも助け合いがあった時代と現代を比べると、私達は何か忘れ物をしている気持ちです。

◎70代 女性

人権に関する多彩な催し物で、認識を新たにしています。今後も続けてほしいです。

人間はみな助け合いながら、この世を生きていくのを教えてもらいました。

◎10代 男性

やはり戦争はだめだと思った。私達若い世代も戦争を知り、なくしていこうと思った。

◎40代 女性

心が苦しくなる話かと思っていましたが、希望に満ちた話で、とても良かったです。本当に世界から戦争がなくなる事を、あきらめてはいけません。

苦しい時期があっても、一生懸命生きればいつか素敵な人生がつかめる。そんな映画でした。

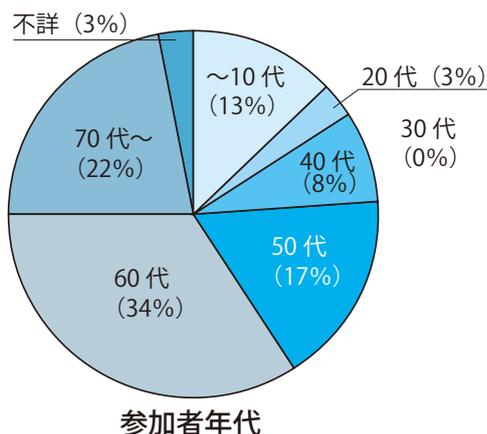
◎70代 女性
わかりやすく「戦争とは」を改めて考えさせられ、もう一度全地球人が原点に立って考えなければならぬと…よい映画でした。

◎60代 女性

忘れかけていく戦争の悲惨さを改めて実感した。胸が詰まる思いでした。

◎10代 女性

12歳の少女が、お兄ちゃんと生きていき、良かったと思います。



■人権に関する問い合わせ
有田川町教育委員会 社会教育課

TEL 521-2111
FAX 321-4827